

台湾經濟の現状

みずほコーポレート銀行台北支店・高雄支店発行「調査月報(2002年4月号)」より抜粋。

詳細は当支店HP(<http://www.mizuhocbk.com.tw/japanese/index.html>)をご覧ください。

1. 景気

(1) 景気総合判断点数

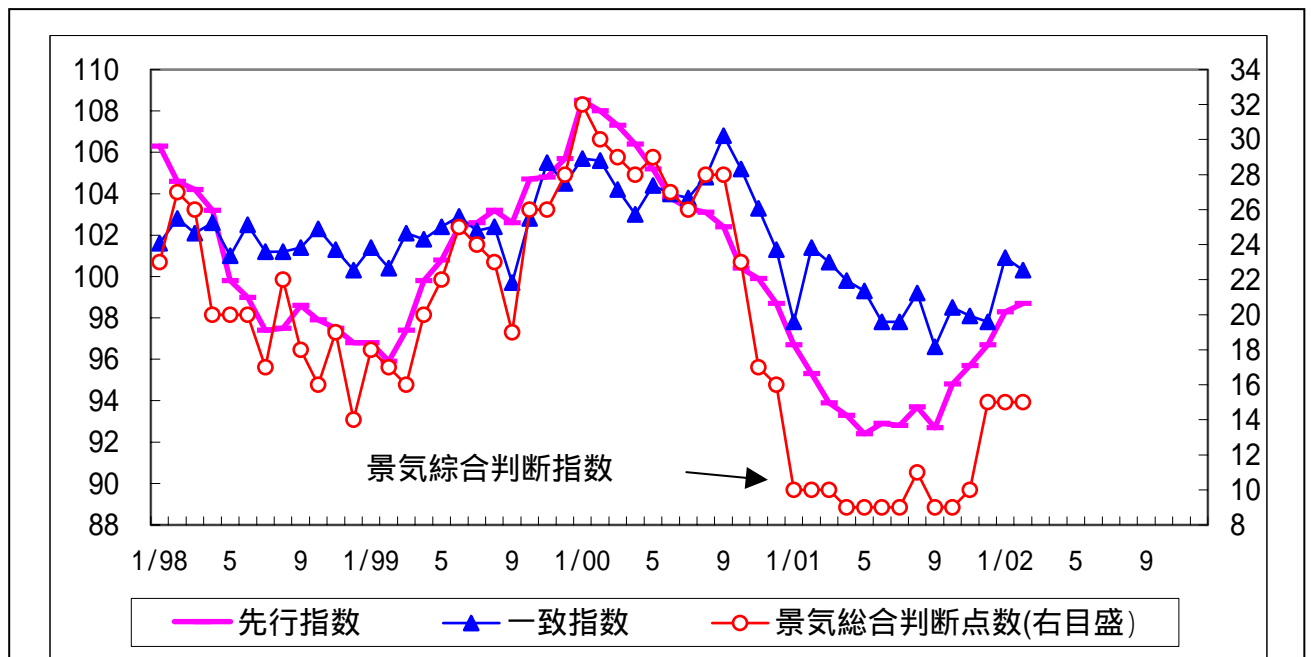
2月の景気は、製造業受注、通関輸出、鉱工業生産等の低迷が続き、手形交換・銀行間送金額や株価指数変動率などが落ち込み、製造業製品在庫も調整局面に入っているものの、旧正月到来による資金需要増に伴うマネーサプライM1B伸びの上昇、間接・直接金融の上昇など好転要因が強まったため、景気総合判断点数は3ヶ月連続して2001年以來の最高点の15点を維持している。しかし、景気対策信号は依然として15ヶ月連続景気衰退を示す「青ランプ」のレンジの中にある。

景気総合判断点数	景気対策信号	景気総合判断点数	景気対策信号
38点以上	赤ランプ = 景気過熱	17 ~ 22点	黄青ランプ = 景気後退注意
32 ~ 37点	黄赤ランプ = 景気過熱注意	16点以下	青、ランプ = 景気後退
23 ~ 31点	緑ランプ = 景気安定		

(2) 景気動向指数

一致指数：当面の景気動向を示す一致指数(1996年=100)は99.0、前月比2.2%に転落した。これは旧正月の季節要因の影響で鉱工業生産、製造業生産、製造業販売、製造業賃金指数、手形交換金額変動率などの構成指標が前月比下落したことによるものである。一方、1-2月平均は100.1、2001年12月を+2.36%上回った。

先行指数：数ヶ月先の景気動向を示す先行指数(1996年=100)は98.7、前月比+0.2%と5ヶ月連続して上昇した。これは通関輸出、マネーサプライM1B変動率と卸売物価変動率の上昇によるものである。一方、1-2月平均は98.6、2001年12月を+2.0%上回った。



資料: 行政院經濟建設委員会

2. 鋳工業生産

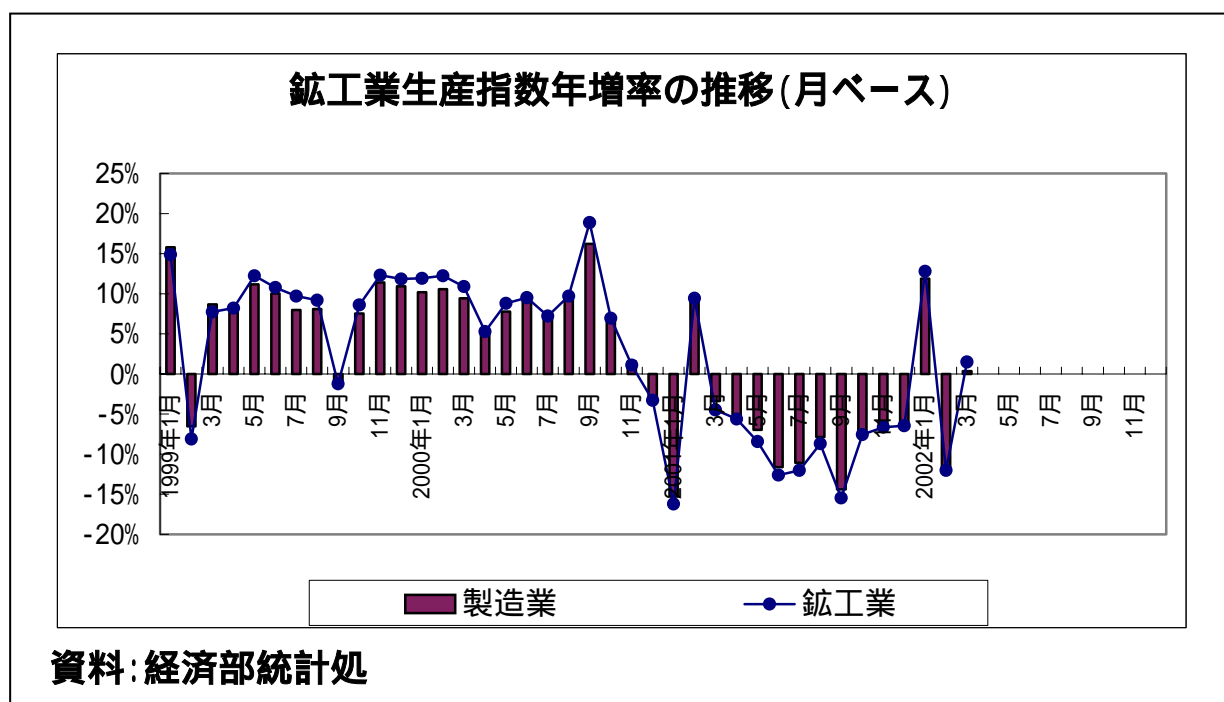
(1) 鋳工業生産指数

2月の鋳工業生産指数は、旧正月による稼働時間の減少という季節要因の影響で前年同月比-11.50%の100.30(1996年=100)と減少したが、3月は海外景気の緩やかな回復による受注の大幅な増加から、前年同月比+0.35%の128.38となった。1~3月累計は前年同期比-0.11%の低下となっている。

このうち、製造業生産指数の伸び率は2月-11.79%に落ち込んだが、3月+1.49%と17か月ぶりの高い水準を更新した。1~3月累計は前年同期比+0.49%に上昇している。一方、ガス水道電気の伸び率は2月-4.12%、3月-0.81%、1~3月累計は前年同期比+0.27%と微増した。鋳業の伸び率は2月-6.87%、3月-11.75%、1~3月累計は前年同期比-1.23%に下落した。住宅建設業生産指数は2月-27.95%、3月-36.38%、1~3月累計は前年同期比-24.56%と低迷ぶりを示している。

(2) 製造業生産指数

製造業生産指数のうち、電子情報産業、金属機械産業、化学産業及び民生産業はともに、旧正月の稼働日数減少に伴う減産により前年同月比べ下落した。1-3月累計の対前年同期比では、IT産業の回復に伴う海外からの受注増加により、電子情報産業は+6.91%の伸びに転じた。化学産業も海外の景気回復や中国大陸からの注文増加などにより+1.21%に上昇した。景気の回復が今一步であることを背景に、金属機械産業の設備投資需要は伸び悩んだものの、下落幅は大きく縮小した。民生産業も既製服や家具や飲料などの減産によりマイナスとなった。



3 . 貿易

(1)輸出

財政部の通関統計によると、3月の輸出は11,450M米ドル、前年同月比-2.3%と13カ月連続してマイナスとなったが、下落幅が大きく縮小され、金額も11カ月の最高額を更新した。

輸出額が前年同月比微減した要因は、

全体輸出の7割強を占める重化学製品の減少

香港、アセアンを除き、米国、日本など主要地域・国から需要減

なお、製品別輸出では、電機、基本金属、ゴム・プラスチック、輸送具などが対前年同期比プラス成長となったが、電子、情報通信、紡織などが対前年同期比マイナス成長となった。

一方、輸出全体の1~3月累計ベースでは、前年同期比-7.9%に落ち込んだ。

(2)輸入

3月の輸入は10,163M米ドル、前年同月比+1.8%と12カ月ぶりのプラス成長となった。

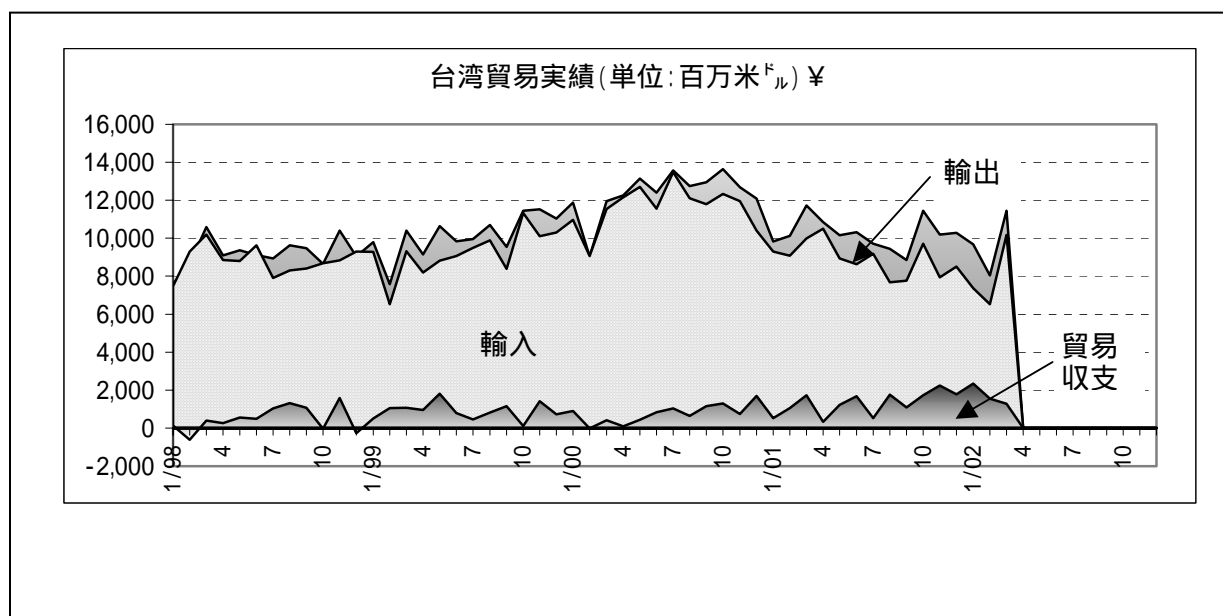
国内景気の不透明を懸念した資本設備輸入の減少があったものの、ITの景気回復に伴う農工原材料における電子部品の増加から、輸入は微増に転じた。

なお、製品別輸入では、機械、輸送具と鉱物品の落込みを除き、電子、情報通信、精密設備、化学、基本金属など主な製品において対前年同期比増加に転じた。

一方、1~3月累計では前年同期比-15.2%となった。

(3)貿易収支

3月の貿易収支の黒字額は1,287M米ドル、1~3月累計は5,140M米ドル、輸出の下落幅が輸入の下落幅より小さかったため、前年同期比+55.2%と増加している。このうち、対香港黒字は3月2,566M米ドル(1~3月累計は6,441M米ドル、前年同期比+9.2%)、対米国黒字は3月679M米ドル(同2,130M米ドル、同+15.3%)共に増加傾向を示している。一方、対欧州黒字も3月489M米ドル(1~3月1,540M米ドル、同-0.4%)と減少傾向を示している。対日赤字は3月1,324M米ドル、1~3月2,710M米ドル、同-18.8%となっている。



4. 物価

(1) 消費者物価

行政院主計処発表の「物価統計月報」によると、3月の消費者物価指数(1996年=100)は102.98、前年同月比+0.02%となっている。これは、衣類の値下げ、家賃の値下げによる住居類の下落、石油価格や電話料金の値下げによる交通類の下落があったものの、WTO加盟に伴い煙酒税法実行によるタバコ、酒類の値上げ、医療保険類、教育娯楽類、美容費用などの雑項の上昇もあったから、前年比横ばいとなった。

一方、1~3月累計では、食物類、医療保険類、雑項類は上昇したものの、衣類、交通類、居住類、教育娯楽類の値下げもあったため、前年同期比-0.09%やや落ち込んでいる。

(2) 卸売物価

3月の卸売物価指数(1996年=100)は95.26、前年同月比-0.59%と13ヶ月連続して下落局面を示している。WTO加盟に伴い酒類、タバコの値上げなどの上昇要因があったものの、農工原材料や中間製品の値下げなどが下落要因もある。

1~3月累計では、主要内訳を見ると、食品・飲料(+8.06%)、タバコ(+32.05%)などの価格は上昇したが、農産品(-0.03%)、鉱物品(-1.14%)、石油製品(-9.37%)、化学材料(-11.53%)、パルプ(-7.36%)などの値下げを主因に、前年同期比-2.29%とマイナスの状況が続いている。
(調査・コンプリアンス課 陳 昭威)

